

K.S.J.

KAGAWA SHINREN JIHO
KAGAWA SHINREN KUMIAI BENGOKAI.

香川県森連時報

21

平成26年1月発行(年2回/1月・7月)

新年
謹賀

新年のご挨拶



森は地球の財産です。

JForest



会長新年のご挨拶

香川県森林組合連合会 代表理事会長 木村 薫



新年明けましておめでとうございます。

森林組合の役職員をはじめ組合員の皆様方におかれましては、ご健勝にて新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。また、本会業務運営につきまして格段のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、いわゆる「三本の矢」による「アベノミクス」効果により円安株高となり、景況感が回復した年であると同時に、富士山の世界遺産登録や、2020年の夏季オリンピック・パラリンピックの東京開催決定など、長引く不況から脱却する明るい兆しを感じられる年となりました。

政治面においては、7月に参議院議員選挙が行われ、自民党が第1党となり、約3年ぶりに「ねじれ」が解消され、安倍首相が消費税率を本年4月から8%に引き上げることを正式に表明した年ともなりました。

一方、昨年は西日本において記録的な猛暑となったり、秋には相次ぐ台風による豪雨災害が発生するなど、自然の猛威を痛感した年でもあり、健全な森林を維持管理することの大切さを感じました。

こうした状況のなか、我々森林組合系統においては、平成23年度から「国産材の利用拡大と森林・林業再生運動」を全国的に展開し、提案型集約化施業、低コスト林業の確立、国産材の安定供給体制の強化など、地域林業・経済の活性化に取り組んでいるところであります。

消費税増税前の駆け込み需要の増加や、木材利用ポイント事業の開始による住宅着工戸数の増加など、国産材原木価格も回復の兆しがみられます。また、林業復活・森林再生を具体的に推進するための「林業復活・森林再生を推進する国民会議」が設立されたことから、こうした業界を超えた動きがみられることは、われわれ林業業界にとって大変心強いものであると感じると同時に、これを好期と捉え積極的に展開するべきであると考えております。

最後になりますが、会員の皆様をはじめ関係機関各位のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、組合員の皆様方のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

謹賀新年

香川県森林組合連合会

代表理事会長 木村 薫

理事 有馬 督治

代表監事 笹川 定義

副会長理事 三角 正博

理事 近藤 貢

監事 井上喜代文

理事 千葉 宗和

理事 松浦 可稔

監事 眞部 康寛



報告 2013ウッドフェスティバル

10月12日(土)、13日(日)の2日間、市内イベント会場「サンメッセ」に於いて、浜田香川県知事、辻村香川県議会副議長、眞鍋香川森林管理事務所長、有福香川県議会環境建設委員長、宮本香川県議会森林・林業・林産業活性化促進議員連盟会長らを迎え、「さぬきの木でスマートライフ」をテーマに第26回の「ウッドフェスティバル」が開催された。本会も香川県木材需要拡大協議会会員として、ブースを出展し各種イベントを展開した。



報告 県及び県議会に要望

11月20日(水) 本会及び県内森林組合長会議は、低迷が続く林業情勢の中で放置竹林対策・県産木材の需要拡大・全国育樹祭の誘致等について、浜田香川県知事、並びに水本香川県議会議長に要望書を渡し陳情を行った。



陳情(浜田知事)

陳情(水本県議会議長)

報告 林業労働安全衛生研修会開催

12月9日(月) 香川東部森林組合、18日(水) 香川西部森林組合、19日(木) 塩江町森林組合に於いて、林業・木材製造業労働災害防止協会安全技能師範宮本光芳氏を講師に迎え、林業労働安全衛生について研修を行った。総勢110余名の林業事業者関係者が出席し、チェーンソー従事者については、特殊健康診断も行った。



報告 第58回香川県植樹祭

12月30日(土)、香川県総合運動公園において、浜田香川県知事をはじめ、辻村香川県議会副議長他のご列席の下、第58回香川県植樹祭(「かがわ山の日」記念事業)が開催され、オオシマザクラを記念植樹し、イチョウ、サザンカ、シャリンバイ、ツツジ類等が園内に植樹された。本会も木村会長他多数の職員が参加した。



報告 木材利用ポイント事業スタート

木材利用ポイント事業が新たに創設され、木材利用ポイントの発行と交換等申請受付が7月1日から本格的にスタートした。木材利用ポイント事業は、対象地域材を活用した木造住宅の新築・増築、内装・外装木質化工事、木材製品・木質ペレットストーブ・薪ストーブ等の購入に対してポイントを付与し、農山漁村地域経済全体への支援事業であり、地域材の需要拡大の取組を促進し、需要を大きく喚起する対策として期待している。

報告 平成25年度森林組合長会議開催

本会2階会議室において、7月1日(土) 第1回、12月13日(金) 第2回の森林組合長会議を、香川県環境森林部みどり整備課杉山課長を迎え開催した。会議では系統運動推進委員会を開催し、また今後の森林組合業務運営について活発な意見交換が行われた。

報告 「緑の雇用」現場技能者育成対策事業実施について

林業の持続的かつ健全な発展を図るためには、林業への就業希望者の裾野を広げるとともに、人工林資源を有効活用し、利用期を迎えた国産材の安定供給に必要な、間伐や路網の整備等を効率的に行える現場技能者を確保・育成し、その定着を図ることが重要です。

このため、「緑の雇用」現場技能者育成対策事業において、新規就業者に対し、安全かつ効率的な作業に必要な基本的な知識・技術・技能等を習得させるための新規就業者育成対策及び担当する現場の効率的な運営又は現場の統括管理のために必要な知識・技術・技能等の習得を図り、林業就業者のキャリア形成を支援するためのキャリアアップ対策を実施しています。

今年度、香川県内の4事業者において新規就業者育成対策としてトライアル雇用4名、フォレストワーカー研修(1年目)4名、フォレストワーカー研修(2年目)6名、フォレストワーカー研修(3年目)4名、キャリアアップ対策としてフォレストリーダー研修2名、フォレストマネージャー研修1名の計21名の研修生が各研修に参加しています。今後、研修生全員が無事故で研修を修了できることを祈っております。

緑の雇用担当



報告 四国四県森連指導担当者会議開催

9月10日(火)・11日(水) 本会2階会議室において、全国森林組合連合会佐々木組織部長を迎え、四国四県森連の指導担当職員12名で会議を開催した。会議では、各県の指導事業・事業運営全般に亘る諸問題について、全森連のアドバイスをいただきながら各県提出の議題を熱心に討議し、盛会に終えた。



報告 四国四県森連購買担当者会議

平成25年9月19日(木)、20日(金) 本会2階会議室において、全国森林組合連合会本多系統事業部購買課主任を迎え、四国四県森連購買担当者会議を開催した。会議では、各連合会からの提出議題の協議及び、四国四県森連購買チラシの検討・各県の取り組みについて情報交換を行った。また、メーカーより、安全対策用品・獣害対策資材等の商品説明があり、各県の担当者は実際に商品に触れてみて、今後の系統購買推進の検討を行った。



特集 さぬき空港公園便り

今年の冬も大変寒いようで、さぬき空港公園でも早朝、噴水の表面に氷が張っていることが多くなりました。さぬき空港公園は丘陵性山地にあるため、平野部より気温が2〜3度低いようで、5cm以上の積雪がある年もあります。

高松地方気象台が12月25日に発表した3ヶ月予報によると、今年は「寒い冬」との予報ですので、例年同様降雪や凍結に対する対策が必要になりそうです。

昨年の夏は雨が降らない日が何週間も続いたため、樹木への灌水作業が重要な業務となりました。特に新しく植栽されたケヤキやクスノキなどの樹木が多かったため、経過を観察しながら頻りに水やりをする必要がありましたが、そのかいもあって、すべて順調に活着したようです。



また、西日本を中心に記録的な猛暑となり、この影響からか来園者が減少傾向にありました。このため、来園者に対する暑さ対策として、ドライミストを設置したり、8月には「真夏の雪遊び」イベントを開催し、来園者の皆様に夏の暑さを忘れて涼んでいただくとともに、さぬき空港公園のPR活動に努めました。特に「真夏の雪遊び」には、1,186人もの方に来園していただき、盛況にイベントを終えることができました。

10月には鳥人広場の花壇の植栽に、竜雲学園かしのき園の多くの生徒さんに来て頂いて植栽のお手伝いをして頂きました。

11月には、新規のイベントとして「グラススキー感謝祭」を開催しました。このイベントでは、グラススキーの世界大会2種目優勝、1種目準優勝の新谷 起世プロを招聘し、グラススキーの指導をして頂きました。募集定員は全部で30名でしたが、定員を超える申し込みがあり、多くの方々にグラススキーに親



しんでいただけたものと感じております。

同じく11月には、昨年7月より導入した、ドイツ生まれの新型そり「ポッカール」のPRイベントとして「ポッカール試走会」を開催しました。このイベントは、グラススキー場内に設定したコースをトーナメント方式で競争していただき、速さと巧さを競い合いました。



12月には徳島市在住で「宮古島100キロマラソン」を8回完走した経験を持つ市民ランナー 東條 圭氏を講師に招き、「初心者のためのジョギング教室」を開講しました。ジョギング講座に参加した方からは「このようなかたちでジョギング教室が開催されることはたいへんありがたい。」といった声が寄せられるなど、大変好評でした。



現在公園内の噴水が、漏水のため運転を停止しておりますが、この噴水の修繕の目処が立ち、来年度中には再稼働できる予定です。例年夏には噴水を利用して水遊びを楽しみに来られることもさんたちも多かったので、ほっと胸を撫で下ろすとともに、噴水で楽しそうに遊ぶこともさんたちの姿が目に見えようです。

植栽管理面では、公園内に植栽されている樹木への施肥や枯れ枝の剪定などを行っています。特に公園内には1000本を超えるソメイヨシノが植栽されていて、花見シーズンには多くの来園者にご利用いただいております。昨年は、四国新聞の「四国のお花見ガイド」や「開花情報」に掲載されたおかげで、1日2000人、月1万人を超える方にご来園いただきましたので、これを契機に香川の桜の名所として定着するよう「満足度」が上がるような管理に努めたいと考えております。

昨年は、サクラの満開が想定より早く、慌ただしく準備をすることになりましたが、今年はこの反省をふまえ、早めの準備をする予定です。

もう少しで指定管理の2年目も終りになり、3年目となります。3年目は、これまでの活動が評価され、公園の管理においても大切な年となります。これからもより良い公園のサービスを提供できるよう職員一丸となって鋭意努力していく所存です。

全国森林組合連合会 人権問題啓発推進事業

森林組合系統組織を挙げて取り組もう人権問題

一人権問題の啓発推進に取り組むこととなる基本事項一

- ★人権問題の取組に当たっては、女性、子ども、高齢者、障害者、同和問題、アイヌの人々、外国人、HIV感染者等、刑を終えて出所した人などへの偏見や差別を除去することを内容とする国民行動計画の趣旨を踏まえ、それぞれの分野において自らの問題として積極的な役割の発揮を努めること。
特に、同和問題の早期解決は人権問題の重要な柱であることに留意すること。
- ★職員採用に際し、戸籍謄本等プライバシーに係わる書類の提出を求めることはできません。
- ★人権問題の啓発推進に当たっては、職場内検討会を実施する等により、役職員一人一人が人権意識を高め、他社の価値を尊重する意識・態度の涵養が図られるよう創意工夫すること。

- ★森林組合、県森連等の長は、人権問題啓発推進担当者（総務担当部署において人権問題啓発担当の責任を有する者をいう。）又は人権問題啓発推進担当部署が活動できるような環境整備に努めること。

